

市民不在の合併離脱劇 あなたはどう見る

真に市民の意志を反映した判断か？

それとも、名称を口実とした保身の為の離脱か？

ハートコミュニケーション

栄八通信

第21号



武雄市議会議員
宮本栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

14710 月末発行

5年後には、基金が底をつく 武雄市は、合併か単独か早く 市民に説明をし、判断を求め てほしい。

9月6日 合併離脱議案に反対した理由

1 名称の白紙からの再協議をすべき

9月2日の第26回合併協議会において、塩田町の田口委員（議長）から、名称再協議の提案がなされ多くの賛同を得た。次回16日に再協議をすると、古庄会長は、はっきり言って議事を終了した。しかし、その直後、用意していた声明文を一方的に読み上げ離脱してしまつた。

市長の言う民意は、区長会の集めた、2万5千人の署名で内容は「名称再協議への働きかけ」である。これが叶ったのであるから再協議の席で、結果にかかわらず一杯の努力をすべきだった。一番の問題点は、市長は、「再協議の要望から、武雄市でなければならぬ」と変つたと言うが、それは、勝手な判断であり、3町及び、市民に証明が必要である。

2 市民に説明責任を果して決断すべき

私は、まず、全協定項目を終了し、住民説明会を開催し、名称も含め、合併する、しないが判断されるものと思つていた。

明治の合併、昭和の合併が、その地域の発展や、市民生活の、大きな分岐点となつていて、客観的に見て、50年に一度の選択の機会であり、十分な話し合いや、将来を見通した判断が必要である。

だから、一番大切なことは、行政や市長が、国が、7百兆円の借金から、三位一体の改革に入り、交付税や補助金削減による、今後の市財政や行政サービスの見直しや単独の場合・合併した場合の将来計画を、市民に示し、住民が、正確な判断ができるようにすることが最大の責務である。今回の、説明なしの離脱は論外である。

3 協議会会長として、又呼びかけ自治体として責任を果すべき

今回の、にげるような、武雄市の離脱劇を見てみると、3年前に杵藤広域圏、2市10町の大同団結を呼びかけた、同じ市長の行動かと疑つてしまふ。

2市10町から、武雄・杵島の1市7町案、それから、鹿島市等との2市4町案、それも集まらず、古庄市長、自ら、山内・嬉野・塩田に呼びかけ、それに応じて3町は、各議会や町民を説得して、苦心の末に参加してくれた。

だから、たとえ、名称問題で合併を離脱すると判断したとしても、今回のように、「次回、再協議をする」と会長として発言して、議事を終り、その後いきなり、用意した離脱声明文を読み上げるなど会長としての責任感が疑われ、武雄市に対して、各町の反感のみ残る。

合併の今後の動向

市長は、私の一般質問の、今後の方針に答えて、「新たな気持ちでH17年3月議決に向けて合併を目指す。」との発言だった。

しかし、具体的な段取りや手順は示されなかった。私が思うに、現実的には、3町で飛地になる山内町との合併が可能が高いと思うが、突然の強行離脱で、すんなり、武雄市に合併を打診して来るかは心配がある。

だから、結果は別としても、再協議して、円満離脱したが、後の展開が、良いと考えていた。ところで、山内町等との新枠組を立ち上げて、しばらく時間を要すと思うので、現在、市は、議員に対して、4年後から投資的予算が、0になる計画を示すが、解りにくい。まずは、単独の場合を他市のように市民に示してほしい。

武雄市も早く 合併問題を判断する資料を示せ!

各市の合併しない場合の計画 (主なもの)

| | |
|-------------|--|
| 伊万里市 | 市職員の給与削減 投資的費用の40%削減 公立幼稚園の料金を6千円→1万円に 下水道基本料金20%値上げ 職員退職者の原則不補充 各種団体やイベント補助金削減 |
| 鹿島市 | 固定資産税・保育料の引き上げ 三役の報酬の1割カット、職員27名減 生涯学習センター・体育館等使用料引き上げ 休日急患センター廃止 助役の収入役の兼任 議員を22人→17人へ5人削減 |
| 多久市 | 議員を20人から16人の4人減 市職員の新採0人。H20年まで 市営のプール・キャンプ場廃止 経費の年5%のカット |

杵所向陽園の民営化と小泉改革

H7年頃に計画した、養護老人ホーム向陽園の民営化が、約10年がかりで、今10月に実現した。

私は、以前議員だった時も、速く民営にし、老朽化した施設を改善すべきと言ってきた。当時すでに伊万里にある施設では、社会福祉協議会が運営していて、新しく、入所者の個室化も進んでいた。

だから、今でもこの10年間の年間3千万円の市からの持ち出し、約3億円は、本当に必要なものではなかったか、疑問。単なる行政の不作為であったと思う。

ところで、三瀬村に特養を運営する敬愛会の内田氏が、公募申込み6法人の中から選ばれて、「シルバーケア武雄」として経営する。(不作為は、いらぬ支出の出発点)

◎議論になった問題点

■改築補助金

敬愛会は、現在の広場の所に新築を6億円かけて計画。敬愛会が、3億5千万円を用意し、国・県が2億円を補助し、市も5千万円補助を制度に測って行う。しかし、小泉首相の三位一体の改革で、この国県の補助金が来年度より削減される可能性が出て来た。そこで、市が、もし削減された場合、利子も含め2億5千万円を補てん保障せざるをえなくなった。やはり、ここでも早く移管していれば、いらぬ保障だったと思う。

お願いします。再度の計画違い・再値上げの分岐点

まず、武雄市の水道が何トン必要かを決めて 施設更新をして下さい！(古いから更新するでは困ります。)

武雄市水道料金が高いわけ

将来計画の失敗

武雄市の公共料金は、日経の全国自治体ランキングによれば、単独の全国ワースト1位でした。その主な原因は、水道料金の高さにあります。

では、何故、二倍を保有したかは、昔、厚生省が、将来の水予測として、一人一日当り、600ℓを使用するとした値を採用し、当時の市のマスタープランで人口増の目標とした4万2千人を合わせると、約2万4千tになる。

なぜ、その水道料金が高いかと言えば、武雄市の一日当りの必要水量1万2千tに対し、2万4千tと二倍の水を保有しているからです。

しかし、実際は、一人一日当り350ℓで、人口も3万5千人で、約1万2千tの利用しかない、将来計画の失敗が原因です。

淵ノ尾浄水場の電機設備更新

今更新必要は無い

今、9月議会に、淵ノ尾浄水場の電機設備更新の為の基本計画の発注に、約9百万円の予算が付いた。市長の提案によると、電機設備が耐用年数を過ぎて故障の可能性が高くなるとの説明である。

たしかに、昭和45年に設置してあり、33年を経過して老朽化している事は、私も十分に解っている。

だから、淵ノ尾浄水場の水が絶対必要なら、だれよりも先に更新を進める。しかし、現実には2倍。例えば、一人が2台の車を使う予定もないのに、維持している状況で、車検を機に整理する時。

また、電機設備と部分的に聞かれるが、浄水場は、コンクリートのプールに川の水を入れ、電機機械の工程で水を作っているわけで、電機類が大半の費用をしめる。

どちらを選ぶか 広域水道と自己水源

広域水道を中心に

まずは、武雄市が水道水の必要水量を決めて、その水量をどう確保するかを考えて、そこで淵ノ尾浄水場の水が、絶対必要となった時に更新して下さい。

以前の計画である人口4万2千人で、一日一人使用水量600ℓは、高度経済成長期であり、将来予測違いも、やむをえなかったか

武雄市の水道が、2倍の水を保有していることは市民に理解してもらったと思う。

ただ、西部広域水道を中心にするか、市の保有するダムを自己水源を中心にするかの判断によって淵ノ尾浄水場更新への賛否は180度変わる。

自己水源中心論

淵ノ尾浄水場で浄化する、1万1千tを中心に、水需要をまかなう考え方で、矢筈ダム・淵ノ尾ダムの保有水利権と、山内町鳥海川や東川登町の六角川から、農閑期に国交省から許可をもらう不安定水利権を利用するもの。

自己水源論者の主張

- ①ダムの建設時の長期債務も現在支払中、ダム権利を活用すべき
- ②自己水源を大切に、西部広域水道を、二部料金制(使用した分だけを支払う)に変えれば良い。

広域水道中心論

- ①西部広域水は、責任水量制で、使わなくても2億5千万円支払の義務がありまた浄水済みで、まず最初に利用すべき。
- ②水道事業は、人口5万人以上でなければ、効率化は、できないとされ、市単独経営の考え方は時代錯誤。

私の考え

私は、以前、自己水源論をとっていた。しかし、武雄市が、西部広域水で、二部料金制の導入を会議で提案したが、多くの町からは、互助の精神で自己水源を廃止して参加した。現在自己水源保有者だけが有利になるのは不満と言うことで否決された。

また、二部料金制になれば、どの自治体も、半分しか使用せず、西部広域水が、経営がパンクすれば料金は減っても、赤字補填の負担

私の結論

武雄市の水需要は、日量1万2千tで、それを西部広域水道の浄化水の6100tと、本部ダムから若木浄水場で、6000t作り、必要水量を確保する。

また、もし水需要が増加した場合、西部広域水が、佐賀導水事業(現水源の嘉瀬川と筑後川を導水路で連絡する事業)で、武雄市分が3年後には、あと1千tがいやでも給水される。

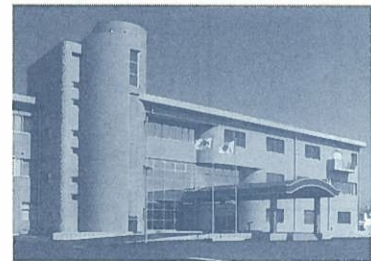
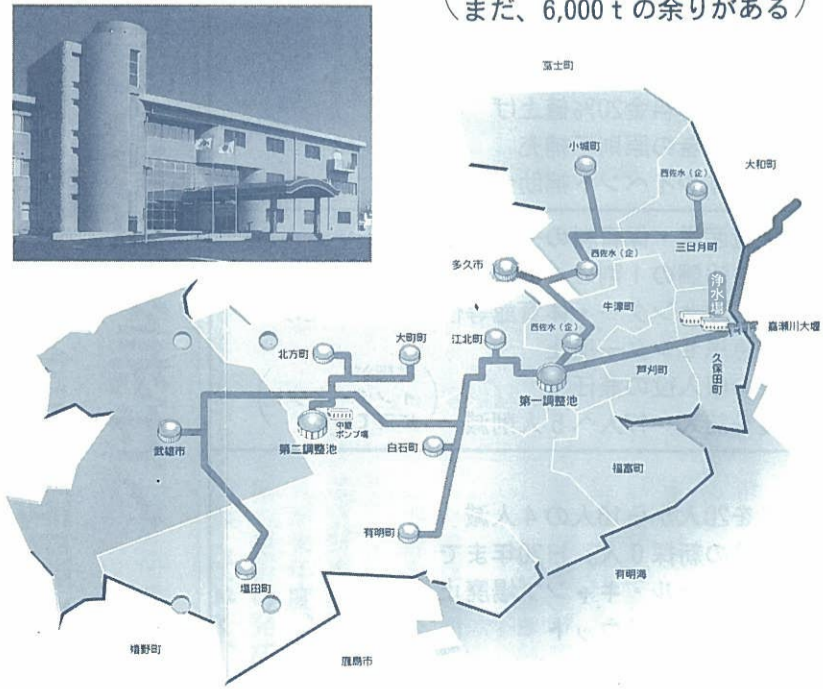
それでも、不足すれば、西部広域水から、t当り134円の超過料金を払って給水を受けたが良い。

それでも不足した時に、淵ノ尾浄水場に、イラク支援に自衛隊がサマワで給水しているような、パッケージ型の浄水施設を作れば良いので、現施設の更新は不要だ。

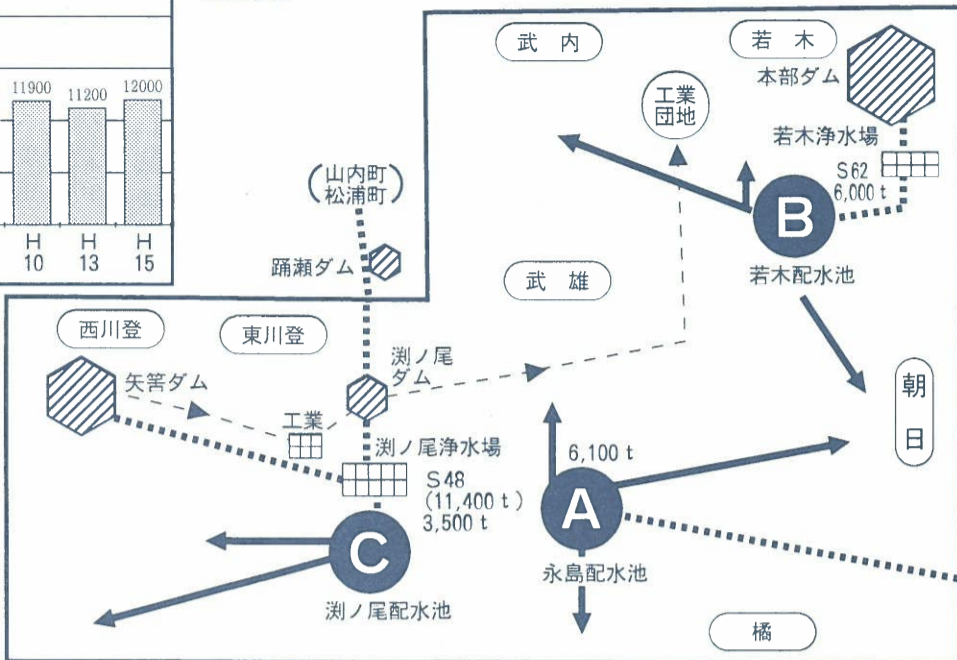
ただ、東・西川登地区へ、西部広域水の給水の為に、永島配水池と淵ノ尾配水池との接続は、今すぐにもすべきだ。

協力し合う西部広域水道企業団

(多久市が追加加入したが
まだ、6,000tの余りがある)



武雄市水道の状況



①永島配水池系

| | |
|----|----------|
| 能力 | 日量6,100t |
| 水源 | 西部広域水道 |
| 給水 | 武雄・橋・朝日 |

②若木配水池系

| | |
|----|------------|
| 能力 | 日量6,000t |
| 水源 | 本部ダム・若木浄水場 |
| 給水 | 武内・若木・朝日 |

③洲ノ尾配水池系

| | |
|----|---------------------------|
| 能力 | 日量11,400t の内安定水利3,500t |
| 水源 | 矢筈ダム・洲ノ尾浄水場 |
| 給水 | 東川登・西川登 |

武雄市の必要水量は日量12,000tこれをどう効率的に給水するか？

(現在、確保している24,000tをいかに設置統合をして半減させるか)

(私の提案)

①永島配水池と③の洲ノ尾配水池を接続し、浄水済の単価89円の西部広域水道の浄水を東西川登地区にも配水し、当面洲ノ尾浄水場を休止。

(参考 - - - 工業用水の流れ)

私の質問と市の答弁

1 市町村合併 (省略)

2 保養村の将来について

① 保養村構想の見直しを
保養村は、長期滞在・民間研修施設・公共の宿の三本柱でスタートした、当所より前2者は成立せず、公共の宿だけが実現した。しかし今、状況が変わり、公共の宿が撤退する中、構想の見直しを。

【答弁要旨】

第2次、保養村整備計画の見なおす中で、新たな構想を作る。
② アネックスへの対応
他の議員の質問で、8億円の価格で購入は無理とのことだが、アネックススポーツランドは無くならないにしても、市として市民健康増進施設の必要性については、どのような考えか？

【市長答弁】

財政がゆるせば、市の健康増進施設の設置も検討したい。
③ トムソーヤの森の整備
第4次統合計画には、子供の集まる場所として保養村にトムソーヤの森を作るとしてあるが、いつになるのか？

【教育長答弁】

トムソーヤの森は、施設整備で

9月議会

3 子育て支援

① 保育所の民営化の前倒しを
三位一体の改革で、向陽園の民営化に伴う改築の国の補助金が削減されようとしている。これは年を経るほどきびしいと思う。保育所の民間改築の国の補助も同じ状況だ。公立は1ヶ所にして、特別保育に力を入れ、他は早く民営化すべきだ。

【市長答弁】

保育所計画を再検討したい。
② 病後児保育の実施を
子育てニーズ調査の集計が出た、私が以前から言っているように、病児保育のニーズは高い。特別保育を目指す、公立保育所で早く取組むべき。

【回答要旨】

現在、個別の民営委託はしているが効率は悪い。本格的な委託も含めて検討したい。
② 水道事業の将来像
私は、これまで、水道事業の将来像を提案して来た。しかし、市の対応はない。では、市自身の考える将来像を示して欲しい。

【回答要旨】

現在、具体的な将来計画はもち

4 水道行政

① 水道料金低減の取り組み
全国市ランキングで、武雄市が最も高かった。改正水道法で、民営委託や事業統合が簡単にできる。これを利用して低減化を。

【回答要旨】

現在、個別の民営委託はしているが効率は悪い。本格的な委託も含めて検討したい。
② 水道事業の将来像
私は、これまで、水道事業の将来像を提案して来た。しかし、市の対応はない。では、市自身の考える将来像を示して欲しい。

【回答要旨】

現在、具体的な将来計画はもち

5 教育行政

① 高校再編については、解決すべき問題が多い
特に、唐津東高校は、中高が同一敷地内に手狭で作れないことから、教育効果が損なわれるとして、移転を計画している。武雄市の場合も同じだ、市教育委員会も、動くべきでは。

【教育長答弁】

議会が、一貫校と普通校の2校体制を求めているので、統合の話をすることはできない。
※それなら、市教委は、2校案を具体的に提案すべき。
② 給食の牛乳のビン化
市は、リサイクル面から牛乳容器のビン化を検討し、県の給食関係機関に打診したが、難しいとの判断と言う。しかし、給食の発注権限は、給食費を集める学校の給食委員会にあり、判断は自由では。

【教育長答弁】

現在、牛乳については市が発注している。個別に発注すれば、割高になる。ビンにすれば2倍の金額になる。



洲ノ尾浄水場、更新の必要性はあるか？

市長提案 議案

●ごみ集積所整備補助金の追加

合併予定だった3町が集積所収集だった為に、武雄市も合わせた。合併は離脱。集積所は残った。まち部では、適当な場所がなく位置が決定していない地区もある。また広い用地がない為に分散し、設置する為の補助金申請が多く、今回250万円を追加するほか、予算不足の為に来年度まで整備を延長することとなった。

●職員退職金を積立てに1億9千万円

例年のごとく、H15年度決算の確定に伴い、残額3億8千万円の半額を退職金として積立した。現在の残額は8億6千万円である。ちなみに、退職者1人当たり約2千600円を払い、15年度は14人分、約3億円を支払った。

●競輪の設備改修しふるさとダービーへ

通常開催の赤字をうめる、全国一流選手を集めた、特別競輪である「ふるさとダービー」が、来年武雄で開催される。その為に、本場の空調やトイレの改修、また秋には、野口英世等の新札発行に対応し器機改修など約8千万円。また、サテライト宮崎やみぞべ(鹿児島県)の来場促進やダービー広告費として2千万円を支出。

- これまでふるさとダービーのおかげで、H6年度は6億円で、H13年度は1億円利益を出した。H17年度は、2億5千万円の年の利益を見込む。
- 洲ノ尾浄水場更新設計8500万円
- 水道料金事務広域処理1000万円
- 区画整理計画変更 10000万円

鉄道高架17年度開通が

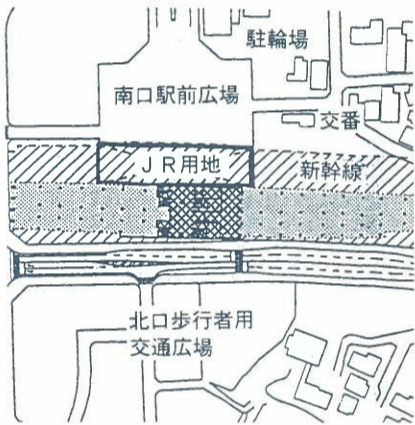
18年度にずれこむ要因は

◆南口広場の問題

今回、大きく変化したのが、図の駅南口の、旧貨物ヤード跡地を、H9年頃前の、石井市長時代に、JRと交した覚書にしたがって、約1億円で購入し、現在の南口ロータリーと合体して、新南口広場を整備する計画であった。

議員の中には、JRが、市に無理に土地を売り付けているとの批判もあっていた。

土地を売らないと言ってきた。市としては、1億円がいらなくなり、嬉しい悲鳴である。ただ、その部分をJRが整備してくれば問題はないのだが、しない場合、市として、その部分をそのまま、放置するのは、新駅の美観上もできない。市は、他者所有地整備には、補助金メニューが無い為に、県による整備を願っているが、決論は未定。



であったが、その部分は、単にアスファルト舗装を、市がのっぺりとしてあるだけであった。ただ、武雄の場合、南口には、約2mの段差があるので、そこをどう金をかけずに整備するかが課題と思う。H10年頃の家では、土手を削らず、芝生や歌壇を作る案もあったので、それも、再検討して良いのではと思う。

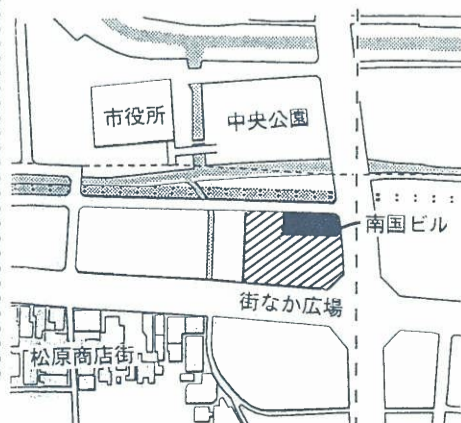
◆街なか広場の問題

高架事業は、新駅舎建設は、JRが事業主体で、市はそれに合せて土地区画整備を行なう。

他市の区画整備では、駅前を碁盤の目のように整備するが、武雄市は高架下用地を整える形である。それは、財政力のない市が、高架を実現する為の苦肉の策でやむをえない。

ところで、本題に入るが、前述のように、駅南JR用地を売らずに保有することになったため、区画整理地区内の地権者から、法に基づいて提供してもらった公共用地の土地(公共減歩)を駅南JR用地の所に集める予定であった。それが不用になった為に、その分の、公園などを作れる、またまった土地が余って来た。

そこで、市は、松原四つ角の東側に集めて、「街なか広場」を検討している。合せて、長崎街道の整備や観光案内板の整備も計画する。ただ、市役所前の広場と今回の街なか広場を合体させて広く活用するとの事で、その間にある南国ビルも移転対象となり、その保障費が新たに発生する。市の持ち出しは、約2億円あまり、JR用地分の1億円を引いても、1億円の費用と考えられるが、その投資に対し、市民の意見の分れる所と思う。一方、市民の一部の話では、もともと南国ビルをさけた高架計画だったが、南国横の高架工事を実施するに当り、建物の基礎等の関係から、ビルがもし損傷した時の営業保障等を県が気にし、工事に当たっての環境を市に整えて欲しいとの要望にそって、考え出した案



市民病院の佐大脳外科医引き上げ

和白病院(福岡県)との差は何だろう

9月より、佐賀大医学部より派遣してもらっていた。脳神経科医師が、引き上げられた。

その理由は、国の医療改革の環境で研修医制度が変わり、研修医(医師見習い)が、2年間専門外も勉強するもので、その関係で、大学病院も、専門医不足となる為に引き上げると言う。

しかし、派遣医師の27人中の6のみを引き上げるのであり武雄でなくて良い。もともと国立療養所を、国の赤字削減の為に統廃合したのを市が受けた側面もあり、当時の国立佐賀医大が、全面支援するとの話で、市営にしたのであり、医大と佐大が統合されて、独立行政法人化したとは言え、武雄病院に全面協力する責任はある。

佐大の本音と市の姿勢

佐大医学部側の言い分、研修医制も理由だが、本音を推察すると他病院では、私立ではアルバイト兼業を認めたり、また宿舎を用意するなど給料も含め待遇が良い現実もあった。一番重要なのが、派遣された医師の技能向上になるかの判断もあるようで、2000ベックト以上の大病院で患者も多く手術も高度で医師の能力アップにつながる病院に重点化されたようだ。

そんな中で、武雄市民病院は、脳外科の患者は診ていたが、診療科目に脳神経科を上げてなかったため、力を入れてない病院に派遣するより、他の病院に派遣した方が良いと考えるのも当然かもしれない。結果は、市民病院に佐大側が、

週一回の半日のみ脳外科医派遣で首の皮一枚つなげた状況。また市は今回あわてて、医師会と調整し、脳外科と泌尿器科を診療科目に追加した。

佐大へ陳情や反対運動

市民の中には、佐賀大学に陳情や国会県会議員を使って、強力に派遣再開運動をすべきだの声もある。ただテレビ「白い巨塔」のように教授が、大なる権限をもって、脳外科医の派遣問題で、あまり教授との対立を、深めると、逆に不利益を受けるとの考えから、市民病院は、研修医期間の2年間は今の週一回半日パート脳外科医で乗り切り、その後、ちゃんと1人医師の派遣を期待すると言う。

また、武雄病院が独自に、院長のついでに、脳外科医を先般募集したが応募者がなかった。一方、武雄病院経営の面では、脳外科関係の収入が全医業収入約15億円の1割をしめているので、逆に医師にどれだけ払えるかを計

市民病院への期待と将来

算し、佐大と交渉する必要もある。ところで、市民病院に期待するのは、24時間の急患の受付と、CTやMRIなどの最新機器での診断である。これが、どうなるかとの問題であるが、基本的には現在の医師で対応できるとのこと、市民には、武雄市民病院のいっそうの利用を期待している。

一方、地元医師会との連携については、今回の診療科目に脳神経科と泌尿器科を加えることには承諾を得た。私が、今後診療科目をどんな基準で増やして行くかを問うた所、現在の来院患者のニーズのあるものを広げるとのこと。

もちろん、市民病院の黒字化を早く実現すべきであるが、地元医師会が、脳外科開設許可の回答の後に、「武雄市民病院の将来のビジョンを示して欲しい」と書いてあるように、開設から4年、いまだ一度、民間医院の一次・武雄病院等の2次・大学病院などの三次医

| 区分 | 病院名 | 規模(床) | 派遣医数 | 1→0 | |
|------|------------|-------|------|-----|----|
| | | | | 週半 | 1回 |
| 公的病院 | 武雄市民病院 | 155 | 1 | 1 | 0 |
| | 西田有田院 | 160 | 2 | 1 | 1 |
| | 西共立病院 | 600 | 2 | 1 | 1 |
| | 唐津赤十字病院 | 350 | 3 | | |
| | 長崎国立医療センター | 600 | 2 | | |
| 私的病院 | 和白病院 | 200 | 5 | | |
| | 聖マリア病院 | 1,300 | 4 | 2 | |
| | 府中病院 | | 2 | | |
| 民間病院 | 大市民病院 | 600 | 3 | | |
| | 大牟田大牟田生 | 160 | 1 | 0 | 0 |
| | 大牟田生 | | | | |

()は今回減員した医数
和白に5人、武雄に0の原因を見つけ、本音への対応が必要

作成後記と今後のプラン

17年3月の1市3町の合併が中心に回っていた武雄市も、離脱と同時に、私も含めて、虚脱感の中にいるようだ。まずは、市が単独の場合のくわしい財政計画を出した所で、経費の削減で行けるのか、それとも、山内町に頭を下げて合併をしたが良いのかの動きがあるものと思う。

いずれにせよ、今度は絶対に住民に説明してから方針を決めて欲しい。

当面は、測ノ尾更新事業計画書の発注だが、これが来年度、将来計画なしに、電機の更新の発注が進まないように監視してゆく。

合併のアンケートでは、水道料金や下水道整備、そして若者の職場の確保が、課題の上位だった。合併はできなかったが、そこに期待された課題には変わらず取り組んでいきたいと思う。